



地域なんでも情報局

令和7年2月12日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市恵美須町4番5号
☎095-828-1281

長崎市社会福祉大会

「わたしたちがつくる長崎市の未来」をテーマに掲げ、令和6年11月30日、長崎市民会館文化ホールにて第40回長崎市社会福祉大会を開催いたしました。

記念となる今大会には、500名を超える市民の皆様にご参加いただきました。

式典では、地域福祉の推進に多大な貢献をされた20団体38名の方々に社協会長表彰として表彰状が贈られたほか、長崎県共同募金会の赤い羽根共同募金運動と日本赤十字社活動資金募集において特に優れた実績を収められた5地区が表彰されました。

表彰式に続き、福祉作文コンクールの表彰式を実施いたしました。福祉作文コンクールは、今回初めての試みでした。長崎市内の小中学生に向けて、自分たちのまちに関心を持ち、より良いまちにするために何ができるかを考えてもらうことで、思いやりの心や助け合いの心を育んで欲しいという願いを込めて作品を募集させていただきました。

表彰式では、子ども達の初々しい姿を見て、会場の皆様から温かい拍手が送られました。最優秀賞受賞者による朗読では、日頃の生活を通して気づいたまちの良さや長崎市の未来に対する思いが、子どもたちならではの言葉で語られ、参加者からは「子どもたちの生の声が聞けて良かった」「これからの地域活動の励みになった」など、多くの称賛

の声が寄せられました。

大会の最後を締めくくるアトラクションでは、諏訪小学校の児童による諏訪っ子くん「鯨太鼓」を披露していただきました。銀屋町自治会の皆様や諏訪小学校の先生方のご指導のもと、入念な準備を重ねた児童たちの力強い演技に、客席からは「モチモチイ、モチモチイ！」の掛け声が上ががり、会場は大いに盛り上がりしました。

この大会は、社協の掲げる「誰もがふだんのくらしのなかでしあわせを感じられる笑顔あふれるまちがさき」の実現に向けて、参加者一同が思いを新たにできる機会となりました。受賞された皆様に改めてお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

追記

本会のホームページにて、第40回長崎市社会福祉大会の様子や、福祉作文コンクールで、最優秀賞及び優秀賞を受賞された方々の作文を掲載しております。ぜひご覧ください。
(戸畑 太一)

シニアもはまるTVゲームスポーツ

令和6年12月10日、市役所の2階多目的スペースで、シニア向けテレビゲームスポーツ体験会を開催し、定員30名のところ、約40名の参加がありました。

この体験会は、高齢者サロンのマンネリ化を防ぎ、同担当者の負担軽減をねらいに生活支援コーディネーターが企画しました。

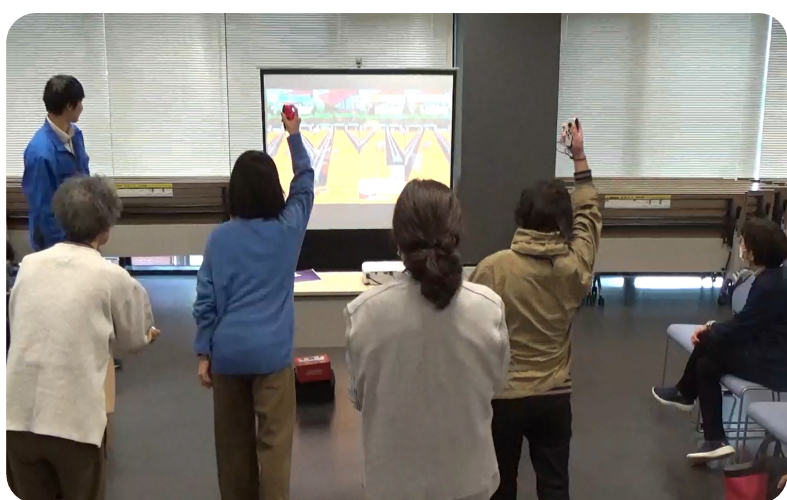
当日は、任天堂(株)の担当者の進行で、ボウリングをしました。ボウリングは、みなさん昔取った杵柄です。一組四人のチームが一体と

なり、機器の使い方を教え合いながら楽しんでいました。見学者の声援も重なった会場は、軽く汗ばむほどの熱気に包まれました。

このアンケート「テレビゲームスポーツの難易度は？」の問いに、参加者の64%が「簡単だった」。「次もやりたいか？」の問いには、77%の参加者が「機材があればやりたい」と回答されました。感想には、「無理なく体を動かすことができました。」「自分達のサロンでも出来そうだから、テレビゲームの機材を社協から貸し出してほしい。」「との声が多く寄せられ、新たな高齢者サロン参加者の呼び水になることが、体験会を実施してみても分かりました。

長崎市社協では、この期待の声に呼応し機器を購入して、地域での集まりの場で利用していただけるよう貸出の準備を進めています。ぜひご相談ください。

(田中 康彦)



当会ホームページから「地域なんでも情報局」バックナンバーがダウンロードができます！
『長崎 地域なんでも情報局』で検索♪
下記QRコードからも見られます。



おもてなしの心にみんな笑顔

山や川に囲まれた自然豊かな町、三ツ山町。六枚板公民館では、近くにお住いの高齢者にとって、月に一回のお楽しみとなっている集いの場「みもぎの会」が行われています。

六枚板地区では、以前から集いの場が欲しいとの声が出たが、なかなか担い手が見つからずにいたところ、この地区の民生委員である中村さんの退職をきっかけに、みもぎの会が立ち上がったそうです。

「今日もよろしくねー！」と参加者が続々と集まり、楽しくおしゃべりの輪が広がります。

12月の今回だけは、毎月千円の参加費を無料にして、クリスマス会とも相まってボランティアの方が自宅で



作って持ち寄ったお料理を、参加者に振る舞われていました。この「おもてなしの心」がこもった手料理はどれも絶品で、参加者が毎回20人近くと多い理由にも繋がっていると感じました。

運営者である、民生委員児童委員の中村さんは「自分たちができることで、皆さんが喜んでくださることが本当に嬉しいです。」
「他のボランティアの方も美味しくそうに料理を食べる皆さんを見るのができて、とても嬉しそうですよ。」とおっしゃいます。

今後も地域の方を暖かく迎え入れるみもぎの会のようなく、集いの場が増えるよう私も支援してまいります。
生活支援コーディネーター

(岩岡 大樹)

クリスマスに紡いだ地域の絆

長崎市社協では、令和6年12月25日に西北地区の旧みどり幼稚園にて「西北地区多世代交流DAY&冬休み宿題サポート」を開催しました。この活動は多世代交流促進のモデル事業として企画し、小学生を中心に地域交流と学習支援を目的として行いました。実施にあたっては高齢者サロン「みどりいきいきフレッシュサロン」の皆さんや民生委員・児童委員さんをはじめ、多くの地域関係団体にご協力いただきました。



当日は13名の小学生が参加し、地域住民とともに楽しい一日を過ごしました。午前中は、長崎純心大学の学生が企画したレクリエーションで会場が笑顔に包まれ、世代を超えた自然な交流が生まれました。お昼に



は、サロンの皆さんが心を込めて作った特製カレーとサラダが振る舞われ、参加者たちは食事を囲みながら会話を楽しみました。

午後には、子どもたちが大学生のサポートを受けながら冬休みの宿題に取り組む学びの時間が設けられました。真剣な表情で課題に向き合う子どもたちの姿が印象的でした。そして、フィナーレには、サンタクロースに扮した大学生が登場。

ラコープ様より提供いただいたお菓子が子どもたちに手渡され、笑顔があふれるクリスマスとなりました。このイベントを通じて、多世代が集い、地域の絆がより一層深まる機会を作ることができました。

生活支援コーディネーター

(福田 耕平)

地域がつなぐ交流の場

橘小学校区コミュニティ連絡協議会(宗直仁会長)は、交流の場が少なくなってきたいる地域の中で、ふれあいの場をつくるため餅つきを開催しています。昨年は12月に橘地区の矢上団地第一集會場で、近隣の住民100人が集まりました。

この餅つきは、コロナ禍で続けて行くことが難しくなってきた時期もありましたが、今年で数えて6回目となり、地域の子どもからシニア世代までが集まるイベントとして賑やかに行われました。

地域の世話人が「1・2・3」と声に合わせて男性が杵を振って餅をつき、女性や子どもたちが餅を丸め、あんこ餅やきなこ餅や、ぜんざいをつくりました。

参加した女の子は「最初は、



餅丸めがうまくできなかったけど、たくさん作ってたら、うまくできました。」と嬉しそうに丸めていました。

同地区青少年育成協議会の役員は「地域との繋がりの場が以前に比べて少なくなってきたのでこのようなか場で、交流をすることは大切だと思っています。」とおっしゃっていました。

この地域での交流が、顔見知りが増えるに留まらず、お互いの見守りにもつながることを期待せずにはいられません。日本の伝統文化である餅つきを通して、これから多くの人が交流できるよう支えていきたいと思っています。

生活支援コーディネーター

(溝田 聡美)